

ちりゆく花①

(1) 村ざかいに、一本の川が流れていました。この川には橋がなく、渡舟で人をはこんでいます。いつも舟をこぐのは清吉という舟頭ですが、今日は清吉の娘ヨウ子が、父に代わって舟をこいでいます。

(2) やがて舟が岸に着くと、「やアやアごくろうごくろう。お父さんの代わりとはえらいねエ。おつりはいらないよ」渡してもらった人はヨウ子をほめてくれました。「ありがとうございます。お父さんは用事があって、役場へ行っているのです」

(3) お客が舟からおりると、ヨウ子は本を出して読んでいました。父ひとり、子ひとりのヨウ子は、父が用事で舟をこげない日は、学校を休んで渡守をするのでした。ところがその時、学校帰りの男の子が通りかかりました。

(4) 「やーいズル休み、学校休んでこんな所で本を読んでいらア」と、いじわるの男の子が来てヨウ子をいじめようとしていました。「あら私」「何だ、私がどうしたんだ」

(5) そこへ、受持の田中先生が来て「健太さん、二郎さん、ヨウ子さんはお父さんの代わりに人をはこんでいるのです。ズル休みではありません」と二人をしかったですので「ウヘーッ、先生さよならー」

(6) 健太と二郎は行ってしまった。田中先生はヨウ子に「ヨウ子さん、ごくろうね。あなた今日休んだけれど、学芸会で主役をやってもらうことになったのよ」「まア、私に出来るかしら」「大丈夫よ、うまくできるわ」先生と話していると

(7) そこへ用事をおえてヨウ子の父、清吉が帰って来ました。「田中先生、向う岸へお渡りかね」「はい、ちよいと用がありました」「そんなら俺がこぐとしよう。ヨウ子、ごくろうだったね」

(8) ヨウ子と田中先生をのせて、清吉はギイギイと舟をこぎ出しました。だが、学芸会で主役をやるときまったヨウ子にひきかえて、悪い子の役をやることになったのは

(9) お金もちの娘、正江でした。「お母さん、田中先生ったらひどいのよ。私にとってもいやな役をやらせて、あの渡守のヨウ子にいい役をやらせるのよ」「まア、バカにしてるわね」二人が話しているそこへ

ちりゆく花①

(10) 村で一番えらい正江の父親が帰って来て、「何、PTAの会長のわしの娘に、そんないやな役を。けしからん。あの田中という先生は、ヒイキをしとるに違いない」正江の父は怒っているが、さて…